ANY WHERE OUT OF THE WORLD

ボードレール

富永太郎訳

青空文庫

人生は一つの病院である。そこに居る患者はみんな寝台を換へようと夢中になつてゐる。或るものはどうせ苦しむにしても、せめて煖爐の側でと思つてゐる。また或るものは窓際へ行けばきつとよくなると信じてゐる。

私はどこか他の処へ行つたらいつも幸福でゐられさうな気がする。この転居の問題こそ、私が年中自分の魂と談し合つて居る問題の一つなのである。

「ねえ、私の魂さん、可哀さうな、かじかんだ魂さん、リスボンに住んだらどうだと思ふね？あそこはきつと暖かいからお前は蜥蜴みたやうに元気になるよ。あの町は海岸（うみぎし）で、家は大理石造りださうだ。それからあの町の人は植物が大嫌ひで、木はみんな引き抜いてしまふさうだ。あすこへ行けば、お前のお好みの景色があるよ、光と鉱物で出来上つた景色だ、それが映る水もあるしね。」

私の魂は答へない。

「お前は活動してゐるものを見ながら静かにしてゐるのが好きなんだから、オランダへ——あの幸福な国へ行つて住まうとは思はないかい。画堂にある絵で見てよくほめてゐたあの国へ行つたら、きつと気が晴々するよ。ロツテルダムはどうだね。何しろお前は檣（マスト）の林と、家の際に舫（もや）つてある船が大好きなんだから。」

私の魂はやつぱり黙つてゐる。

「バタビヤの方がもつと気に入るかも知れない。その上あそこには熱帯の美と結婚したヨーロツパの美があるよ。」

一言も言はない。——私の魂は死んでゐるのだらうか？

「ぢあお前は患らつてゐなければ面白くないやうな麻痺状態になつてしまつたのかい？　そんなになつてゐるのなら、『死』にそつくりな国へ逃げて行かう——万事僕が呑み込んでゐるよ、可哀さうな魂さん！　トルネオ行きの支度をしよう。いやもつと遠くへ——バルチク海の涯まで行かう。出来るなら人間の居ないところまで行かう。北極に住まう。そこでは太陽の光はただ斜に地球をかすつて行くだけだ。昼と夜との遅い交替が変化を無くしてしまふ、そして単調を——虚無の此の半分を増すのだ。そこでは長いこと闇に浸つてゐられる。北極光は僕等を楽しませようと思つて、時々地獄の花火の反射のやうに薔薇色の花束を送つてくれるだらう。」

遂に、突然私の魂は口を切つた。そして賢くもかう叫んだ、「どこでもいゝわ！　此の世の外なら！」

青空文庫情報

底本：「富永太郎詩集」現代詩文庫、思潮社
1975（昭和50）年7月10日初版第1刷
1984（昭和59）年10月1日第6刷
底本の親本：「定本富永太郎詩集」中央公論社
1971（昭和46）年1月
入力：村松洋一
校正：岩澤秀紀
2013年1月24日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

ANY WHERE OUT OF THE WORLD

ボードレール

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

著者　　富永太郎訳
URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/